



# 大樹のこころ

## 他校からの参観

1学期に、市内のある小学校の校長先生から1本の電話がありました。「本校の教員の勉強のために、大樹寺小の先生の授業を参観させてほしい」との内容でした。以前から本通信でお伝えしていますように、本校は来年度に研究発表会を開催します。それに向けて独自の授業理論を構築し、DJ学習と名付けて実践しています。DJ学習とは(D・大好き J・授業)と大樹寺(DaiJuji)をもじった造語です。このDJ学習が、一番目指すことは「全員が参加できる授業」の実現です。学習の得意な子だけが活躍するのではなく、クラスの全員が授業に参加する。当たり前のことですが、これまで学校現場ではなかなかハードルの高いものでした。「どの子も大切にしたい」「どの子の力も伸ばしていきたい」という教師の願いから、授業研究が出発しました。

6月に合同訪問として、本校全ての授業を参観した市教委の主事や岡崎市教科領域指導員から、お褒めの言葉をいただきました。こうしたことが評判となったのか、先に述べた校長先生からの電話となりました。「特別な用意をせずに、平素の授業で良いなら」ということで、参観を受け入れることにしました。さらに別の学校からも参観を希望する声が届き、計2校の先生が来ることになりました

9月27日(金)には6名の先生が来校し、2の3の国語科「ニャーゴ」、3の1の国語科「サーカスのライオン」の授業を参観していただきました。本校にとっては、「普通の授業」ですが参観した先生はとても感動したようです。後日、授業を参観された先生方からから以下のよう感想(一部抜粋)が届けられました。称賛の言葉が並び、嬉しさでいっぱいです。外部の方が、このような評価をしてくれたことで、本校

の授業の方向性に間違いはないと安心しました。これからも全員が参加できる授業を目指していきます。



- どの子も挙手をして発言し、参加する姿や活発にチームで話し合う姿があり、圧倒されました。
- まず、はじめに驚いたことは、子供たちの元気溢れる様子です。大きな声で挨拶し、授業中の発言の声の大きさや挙手するときの勢いなどパワーみなぎる様子でとても感心しました。
- 授業全体を通して子供同士が認め合う言動が多く、学級がとても温かい雰囲気だと思いました。普段から友達の意見に体を向けて聴き、友達の意見に「なるほど」と認め合うことで話しやすくなると思いました。また、教師の子供への言葉がけもとても温かく、そのような姿を見せることで、子供たちも認め合っていくと感じました。
- 廊下で出会う子供たちの挨拶の声や表情が明るかったのも印象に残りました。校長先生が「授業中のアイコンタクトやうなずきなどにより、子供たちが仲良くなりけんかもなくなる」と話されましたが、このことと関係があるように思いました。
- 電子黒板の前に出てきて指示棒を使って発言する様子が堂々としており、日頃から慣れていること、参観者がいる前でも臆することなく前に出られることから心理的安全性の確保された学級であると感じました。